

5版5色刷り木版画「色を変えて」

1. この授業でつきたい力 (題材の目標)

身近な植物をモチーフに多色木版画を制作する。絵画とは違う間接的表現である「版」の特長を生かした多版多色刷りを学び、重ねる色を変えることにより作品の魅力が、一層増すことを体験させたい。

2. 材料

画用紙・カーボン紙・トレーシングペーパー・版木(シナベニヤはがき大5枚)彫刻刀セット
・新鳥の子紙・版画絵の具・バレン・刷毛・新聞紙

3. 展開 (合計14時間 実施時間数13時間+鑑賞1時間)

制作過程

① 版画について (1時間)

版画の歴史・版種・版材・教科書P18～19参照

② 校内外の植物をスケッチする。(1時間)

教科書P8～9参照 スケッチを元に木版表現の良さを生かした版下を作る。

5版多色刷りとして配色を考えた、分版計画を立てる。(1時間)

刷り重ねることで版の数より多くの色が表現できる。

③ 転写 (1時間)

トレーシングペーパーを重ねて確認してから版木に写す。

④ 彫り (3時間)

彫刻刀の特長を生かした表現をする。刀の安全な使い方を学ぶ。

⑤ 試し刷り (1時間)

版木や和紙の扱いを学び、刷り方の手順を理解する。版の修正をする。

⑥ 本刷り (4時間)

版木修正と試し刷りを繰り返してから、本刷りをして作品の完成度を上げる。色違いの作品を印刷し版の可能性を感じる。

⑦ 額装 (1時間)

作品にサインを入れ、額装する。

鑑賞・作品展示 (1時間)

お互いに鑑賞し合い、感想を述べ合う。校内に作品を展示し、多くの人に見てもらう。

4. 観点別評価（学習活動に即した評価基準）

（1）美術への関心・意欲・態度

表現 関①「身近な植物」というテーマを基に、自然を観察して感じ取ったことや考えたことなどから表現することに関心を持ち、主体的に主題を生成し、形体、色彩、構成などを創意工夫して構想を練ろうとしている。

表現 関②木版の技法や材料、用具の特性や効果を主体的に生かし、表現方法を工夫しながら主題を追究して表現しようとしている。

鑑賞 関③他の生徒作品の良さや美しさ、作者の意図や木版表現の工夫などに関心を持ち、作品などについて理解しようとしている。

（2）発想や構想の能力

発①「身近な植物」というテーマを基に、自然を観察して感じ取ったことや考えたことから主題を生成している。

発② 主題を効果的に表現するために表現方法の特性を生かし、形体、色彩、構成などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。

（3）創造的な技能

創① 木版の技法や材料、用具の特性を理解し、目的や意図に応じて特性や効果を生かして表現している。

創② 表現したい意図を大切に、より効果的な表現方法を選択・活用するなど創意工夫し、主題を追求して表現している。

（4）鑑賞の能力

鑑① 他の生徒作品の良さや美しさ、作者の意図や木版表現の工夫などを感じ取り、作品に対する見方や感じ方、考え方などを持ち理解している。

5. その他

資料1 版画の種類：版の形式によって凸版・凹版・平版・孔版の4種類に分けられる。

版種	版材
木版画（板目木版・木口木版） 型押しスタンプング	シナベニヤ・ホオ・サクラなど 消しゴム・野菜など
ドライポイント	銅板・樹脂板・亜鉛板
リトグラフ（石版画）	亜鉛板・大理石
シルクスクリーン ステンシル	絹・テトロン・ナイロン 型紙

資料2 彫刻刀の種類：授業では主に4種類を使う。彫刻刀の使い分けがポイント。

資料3 版木の種類